

特定非営利活動法人

横浜日独協会 / J D G Y

Non-Profit Organisation Japanisch-Deutsche Gesellschaft Yokohama



横浜日独協会の活動は？

- ☆ ドイツ文化の紹介
- ☆ 日本とドイツの友好親善
- ☆ 講演会・演奏会・見学会
- ☆ 青少年の日独交流支援
- ☆ 地域中小企業支援プロジェクト



日独の“草の根交流”に参加しませんか？

会員制度

会の活動は、法人および個人の会費で運営されています。

会員種別：

個人会員	(入会金 ¥2,000、年会費 ¥3,000)
家族会員	(入会金 ¥1,000、年会費 ¥2,000)
ヤングクラブ 青年会員	(入会金免除、年会費 ¥2,000)
ヤングクラブ 学生会員	(入会金、年会費共免除)
法人会員	(年会費 1口 ¥20,000 から)
個人賛助会員	1口 3,000 円 (1口以上)
団体賛助会員	1口 10,000 円 (1口以上)

法人会員

株式会社文芸社	ウインクレル株式会社	ボッシュ株式会社
公益財団法人登戸学寮	トルンプ株式会社	株式会社コトブキ
モトスミ・ブレーメン通り商店街振興組合		神奈川大学
横浜国立大学成長戦略研究センター		ワインブティック伏見

NPO 法人 横浜日独協会

所在地：〒231-0062 横浜市中区桜木町 1-1-56 5階 市民活動共同オフィス内

お問い合わせ：

横浜日独協会 事務局

〒223-0058 横浜市港北区新吉田東 2-2-1-913

能登 崇方 Tel & Fax: 045-546-0801

横浜日独協会ホームページ: <http://jdgy.sub.jp/>





『会長からのメッセージ』

横浜日独協会会長 早瀬 勇

I 《設立6周年を迎えました》

私たちの横浜日独協会は2010年10月16日、ドイツ大使や横浜市長はじめ関係者皆様の多大なご支援を頂いて、東京横浜独逸学園で誕生いたしました

それ以来、月例の講演会やコンサート、隔年の作文コンテストによる高校生のドイツ派遣、「第1回日独ユース・フォーラム横浜」の主催や、横浜の中小企業を対象とした「第1回横浜ドイツ・インダストリー4.0セミナー」の共催などを通じて、横浜市民や学生との交流の輪は広がり、現在日独の個人会員約195名、ボッシュやトルンプなどを含む日独法人会員9法人を数えています。

II 《なぜ今、ドイツなのでしょう？》

今や欧州連合(EU)の盟主と言われるドイツと、アジアの先進工業国日本とが、価値観を共有して150年余に及ぶ世界的にまれな友好関係を維持していることは、日本外交にとっても欧州とアジアの連携の上でも計り知れない大きな意味を持っていると言えます。

日本はドイツから多くを学んできましたが、今でも科学技術や経済・産業のデジタル化(インダストリー4.0)等で学ぶべきことは沢山あります。

国際政治でも、戦後71年を経たいま日独両国はインド、ブラジルと共に国連・安全保障理事会の常任理事国入りを目指しています。常任理事国に選ばれるためには、日本も凛とした強靱な国家として世界から信頼されねばなりません。

「官」だけに頼らない「民」の“草の根外交”こそ国際平和の礎ですし、国際都市横浜は無限の可能性を秘めています。

III 《これまで協会は何をしてきましたか？》

- ① 設立記念式典でシュタントツェル駐日ドイツ大使(当時)の記念講演会と同記念コンサートを開催(2011年7月、山手フェリス・ホール)
- ② 全国日独協会連合会の年次総会を初めて横浜で開催。林文子市長(当協会名誉顧問)が歓迎挨拶(2011年4月、横浜ナビオス)
- ③ ノーベル化学賞受賞の根岸英一博士講演会を後援(2012年5月横浜開港記念館)
- ④ フランクフルト市ロート市長講演会と懇親会を共催(同年同月、横浜市内)



- ⑤ テレビ神奈川開局40周年記念番組「環境先進国ドイツに学ぼう」の企画・現地取材・座談会に早瀬会長が生出演(2012年6~9月)
- ⑥ フランクフルト独日協会と協力協定に調印(同年7月、カイザーザール)
- ⑦ 東日本被災地支援のチャリティー・コンサートを主催。義援金をドコモエコカー事業に寄付(同年11月、大倉山記念館)
- ⑧ フランクフルト独日協会主催の高校生作文コンテスト入賞者をホームステイ受け入れ(2013年2名、2014年2名、2016年3名)



- ⑨ エリゼ条約50周年記念の独仏両国大使による講演会を後援・協力(2013年7月、神奈川大)
- ⑩ 設立3周年記念式典と記念コンサートに横浜の高校生を招待し、シュタンツエル駐日ドイツ大使の講演の感想文でドイツ派遣高校生を選考(同年9月、戸塚フォーラム)
- ⑪ ハンブルク「桜の女王」一行歓迎会(2014年4月、メルパルク横浜)
- ⑫ フランクフルト市民団一行が林市長を表敬。当協会員も参加・交流(同月)



- ⑬ デュッセルドルフでの独日協会全国大会に早瀬会長、能登事務局長が参加(同年5月)
- ⑭ ハンブルク独日協会と協力覚書を交換

(橋丸DJG会長と早瀬会長が署名、同年6月、ハンブルク)

- ⑮ フォンドラン全国独日協会会長が来浜(同年10月、会長宅で歓迎会)
- ⑯ 新ドイツ大使ご夫妻歓迎と設立4周年記念パーティー

(同月、メルパルク)



- ⑰ バイエル・フランクフルト独日協会新会長が来浜(2015年4月)
- ⑱ 設立5周年記念フォン・ヴェアテルン駐日ドイツ大使講演会と二期会島村武男バリトン独唱会(2015年9月、都筑区公会堂)。
- ⑲ フランクフルト市フェルトマン市長一行が来浜、当協会が歓迎レセプション主催(2016年1月、メルパルク横浜)

- ⑳ 横浜市「ぬくもりトーク」で林市長と協会担当者らが懇談(同年4月)
- ㉑ ハンブルク第1回「桜の女王」歓迎会主催(同年同月、戸塚さくらプラザ)
- ㉒ 第1回「日独ユース・フォーラム横浜」を主催

(協会内のヤング・クラブ(YC)を中心に日独の若者と会員計80名が参加)

(同年同月、横浜市国際協力センター内国際会議場)



- ㉓ 若手芸術家の支援(ドイツ留学中の武田章寛さんのヴァイオリン・リサイタルをドイツ大使館と共に後援)(同年9月)
- ㉔ 第1回「インダストリー4.0 セミナー」をIDECと共催(同年10月、情文ホール)

IV<<市民団体として 横浜市の発展に協力します >>

2011年、横浜市はフランクフルト市とパートナー都市提携協定を結び、①経済、特に中小企業の活性化、②スマートシティ創造のノウハウ交換、③文化芸術の交流と国際都市としての価値創造、を目指して固く手を結びました。この二都市間の協力が実現すれば、私たちが住む横浜は必ず発展するでしょう。横浜日独協会も民間側からそれをお手伝いし、日独草の根外交を進めるために、フランクフルト独日協会と「協力協定」を結びました。2014年には、横浜港と姉妹港であるハンブルクの独日協会と「協力覚書」を交わし、ハンブルク桜の女王の歓迎会を主催しています。

海外と協力文書に調印しただけでは、何の意味もありません。この4年間に、まず横浜市からの財政支援を頂き作文コンテストによる高校生ドイツ派遣(隔年)を実施しました。またドイツ発祥の“つなぐ工場”ともいわれる「インダストリー 4.0」を中小企業にも利用可能とするた

めのセミナーの開催、協会内にできたヤングクラブを中心とした「第1回日独ユース・フォーラム横浜」の開催などを実現しました。いずれも横浜市国際戦略2016に呼応するものです。これも役員・運営委員、会員皆さまの協力の賜物です。横浜市国際局はじめ関係部局、外郭団体（IDEC）のご支援のお蔭です。協会機関紙”Der Hafen”（港のドイツ語）やHPも協会活動と共に年々充実し、会員共有の広場になっています。

これからも会員皆さまが手を携えて、横浜とその周辺からの新しい会員を受け入れ、“明るく楽しく前向きに”（ATM）をモットーに月例会などを盛り上げて、国際都市ヨコハマに相応しい活動を進めて参りましょう。（了）

【地域中小企業支援プロジェクト】

横浜日独協会には、商社・銀行・製造業ほか多岐に亘る企業のドイツ駐在経験者が多く、そのビジネス実務経験を生かし、地域の中小企業の優れた製品・技術をレベルの高いドイツ市場に、或はドイツの開発技術・製品を地域中小企業向けに、紹介をしています。また横浜市国際局・経済局・IDECなどの指導・協力を得て、ドイツの産業・経済に関する動向・情報を中小企業に提供する努力をしています。（坂井啓治）

【高校生作文コンテスト推進プロジェクト】

世界の国々はますます相互依存を深め、市民レベルでも国際化が進んでいます。日本の将来を担う若者たちに、世界を、そして外から日本を見る機会を持ってもらうためにEUの中心的存在であるドイツに高校生を派遣します。横浜日独・フランクフルト独日協会間の交流事業の1つである当コンテスト応募者の中から、優秀者2名をフランクフルト市への研修旅行に招待すると共に、同市からも高校生を受け入れています。（磯貝喜兵衛）

【ヤングクラブ（略称YC）について】

横浜日独協会には、30歳未満の学生を含む次世代の会員を対象とした、ヤングクラブ（略称 YC）と称する親睦団体があります。YCは若い世代向けの各種イベントの開催、日独学生の交流、その他YC世代のニーズを取り込んだ活動を企画推進しております。2016年4月には日本留学中のドイツ人学生も交えた第一回ユースフォーラムをドイツ大使館や横浜市の支援を得て開催致しました。（小島拓人）



< 横浜日独協会 役員一覧 > 2017年5月20日現在

会 長：	早瀬 勇				
副 会 長：	能登 崇	向井 稔			
常務理事：	坂井 啓治	小島 拓人	南雲 淑子	山口 利由子	齊藤 進治(事務局長)
理 事：	黒崎 稔	大久保 明	ロベルト・ゼーリッヒ	ハンス・ユードック	
	神永 晋	成川 哲夫	山岸 隆	磯貝 喜兵衛	中尾 尚未
	ハルトムート・パネン		寺澤 行忠	佐藤 恵美	藤田 香
監 事：	四方田 彰	戸田 龍介			
名誉顧問：	林 文子（横浜市市長）				
名誉会員：	兼子 良夫（神奈川大学学長）				
顧 問：	瓜谷 綱延（株式会社 文芸社社長）				
顧 問：	織田 正雄（日独協会理事）				
運営委員：	大治はるみ	地野 洋子	大堀 聡	谷澤 優子	